



吉川市長 中原 恵人氏

市長のメッセージ

吉川市は江戸川と中川に挟まれ、なまず料理をはじめとする川魚料理が有名な田園風景の広がる自然豊かな街です。

本年4月に市制施行30周年を迎えました。この節目の年である、令和8年度は1年間を通してさまざまな記念事業を実施します。吉川市のこれまでの歩みを振り返り、先人に感謝するとともに、この30周年を「幸せつながる」未来への新たな出発点とし、市民と行政の共動による、街の幸福実感の向上を目指します。そしてさらに「価値ある未来」を市民の皆さんと共に創り上げてゆけるよう取り組んでまいります。

※共動：市民と行政が課題を共有し、解決に向けて共に動くこと。市長として私が掲げる理念の一つ。

はじめに

吉川市は都心から約25キロメートルの埼玉県南東部に位置しており、東は江戸川を挟んで千葉県野田市・流山市、西は中川を挟んで越谷市、草加市、南は三郷市、そして北は松伏町と、それぞれ境を接している。

市域の約4割を農地が占めており、市街地と農地が混在する表情豊かな風景が広がっている。市内には、JR武蔵野線吉川駅と吉川美南駅の二つの駅がある。また、市の南東部を走る常磐自動車道は、三郷料金所スマートICが2025年3月にフルインター化し、東京方面への入口と東京方面からの出口が利用可能となるなど、交通の利便性は非常に高い。

1955年に吉川町、旭村、三輪野江村が合併して今の姿となった。その後、1973年国鉄（現JR）武蔵野線の開通と吉川団地の建設を経て、1991年には人口5万人を超えた。1996年4月に市制を施行し、「吉川市」が新たに誕生し、本年市制施行30周年を迎えた。

なまずの里よしかわ

「吉川に来て、なまず、うなぎ食わずなかれ」という言葉があるように、東を江戸川、西を中川に挟まれたこの地には、豊富な川魚を活かした川魚料理の食文化が根付いている。なかでも、なまずは古くから食され、身を包丁でたたき、味噌などを練り込んで揚げた「なまずのたたき」は、家庭の味・郷土料理とし

て親しまれてきた。

2017年に開催された全国なまずサミットで、7月2日を「なまずの日」とすることが認定されたことをきっかけに、毎年7月2日には市内小中学校の給食で「なまずの日献立」を提供している。これまで「なまずのコーラ煮」や「なまずの天ぷら」、「なまずドッグ」などさまざまななまず料理を提供してきた。昨年は「なまずバーガー」を提供し、児童生徒に大変好評だった。

市内のさまざまな「なまずスポット」にも注目だ。吉川駅南口ロータリーには、漆工芸「蒔絵」の人間国宝・室瀬和美氏が制作した金色の「なまずモニュメント」が、市庁舎の前には、彫刻家・伊藤哲一氏のなまずの石像「森と鯰」が設置されている。2022年には「なまずの日」制定5周年を記念し、吉川美南駅西口に「なまずオリジナルポスト」を、また、市民農園にはなまずをかたどった築山「なまずの丘」を、さら



吉川美南駅西口の「なまずオリジナルポスト」

吉川市概要

市の木 モクセイ 市の花 サツキ・ツツジ

人口(2026年3月1日現在)	72,015人
世帯数(2026年3月1日現在)	32,700世帯
平均年齢(2025年1月1日現在)	45.9歳
面積	31.66km ²
製造業事業所数	213所
製造品出荷額等	891.5億円
卸・小売業事業所数	300店
商品販売額	882.2億円
農業産出額	13.7億円
一人当たり都市公園面積	7.75m ²

資料:経済産業省「経済構造実態調査」ほか



主な交通機関

- JR武蔵野線 吉川駅、吉川美南駅
- 常磐自動車道 三郷ICから市役所まで約7km

に、昨年は吉川美南駅東口ロータリーに新たな「なまずモニュメント」を設置し、駅から降り立つ人々を出迎えている。吉川市を訪れる際にはこれらのなまずスポットをぜひご覧いただきたい。

文化芸術を通じた地域課題の解決

吉川市は、従来から文化芸術の振興に積極的に取り組んできた街だ。「文藝よしかわ」の刊行やプロの演奏家による「生音コンサート」等の事業を展開し、市民が気軽に文化芸術に触れることができる環境づくりを進めている。

近年はその取り組みをさらに一歩進め、健康福祉、産業振興、子育て支援などのさまざまな分野で文化芸術を多面的に活用することで、コミュニティの醸成や地域の活性化、健康・体力づくりといった、地域が抱える課題の解決につなげている。

例えば「演劇プロジェクト」では、子どもから高齢

者、障がい者、外国人まで多様な参加者による演劇公演を実施。また、公園トイレ壁面への「なまずタイルアート」や、小学4年生が製作する色とりどりの「なまずのぼり」など、文化芸術を幅広く活用し、まちづくりを行っている。

吉川美南駅周辺開発

2012年3月に開業した吉川美南駅では駅周辺の開発が本格化している。西口では土地区画整理事業が完了し、駅前広場、商業施設、住宅などが整然と整備され、賑わいのある良好な街並みが形成されている。

東口周辺についても「笑顔と緑あふれるみんなの庭～Everyone's Garden～」をコンセプトに、地区全体を市民すべての庭として捉えて、都市と自然の共生の中に笑顔と緑あふれる空間が生まれ、市民一人ひとりが安らぎと潤いを感じられるまちづくりが着実に進められている。

東口駅前に広がる商業・業務ゾーンは、市の新たな玄関口として、この地を訪れたいくなる利便性の高い店舗や文化施設、就業を支援する子育て施設などの機能を集約した、にぎわいのある空間の創出を目指している(表紙写真)。

川と密接した文化や自然に恵まれ、文化芸術の振興にも積極的な吉川市は、利便性が高く、生活しやすい幸福を実感できるまちとして、発展を続けている。(吉嶺暢嗣)



多様な参加者による演劇公演